

こどもの 居場所づくり 支援事業



1 古河市について

合併20周年

合併：平成17年9月12日
(1市2町)

面積：123.58km²

人口：139,372人

※令和7年10月1日現在

人口割合：年少人口 11.7%

生産年齢人口 59.5%

高齢者人口 28.8%

※令和2年国勢調査



花火大会



武家屋敷の面影



渡良瀬遊水地



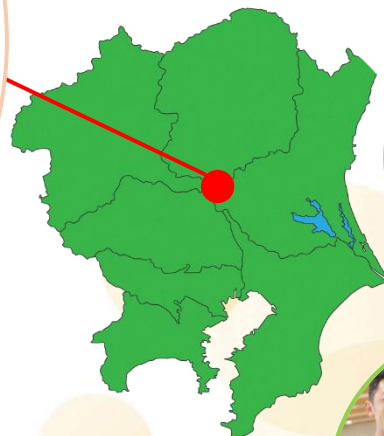
古河公方公園
桃まつり



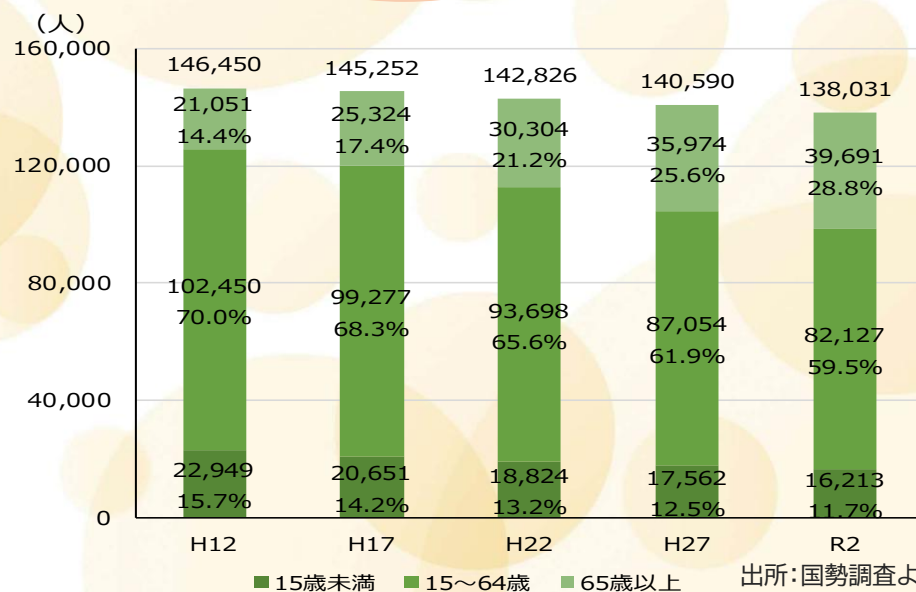
古民家旧山川邸



道の駅
まくらがの里
こが



人口の推移



令和7年3月、こども
施策における羅針盤
「古河市こども計画」
を策定



地域課題

多くのこどもは自分の家以外にほっとできる居場所がないことが判明。

困難な状態にあるこどものうち、行政が発見し、支援につなげられる割合は非常に少ないが、誰でも来ることができる居場所は、そのようなこどもを早期に発見し、支援につなぐための場・機会となることが期待される。

第3期古河市地域福祉計画では、地域福祉活動において、PFS/SIB導入の可能性を検討する、としている。

古河市こども計画において、上記の地域課題を整理し、こどもの居場所づくりを重点施策として掲げ、その事業手法として、SIBを選定した。

10社以上のサウンディングを経て、令和7年度から5年間の事業を構築。当事業は、コーディネーターとなる受託者に(株)公文教育研究会、(特非)茨城NPOセンター・コモンズ、(福)下総プリンスクラブからなる共同体を、資金提供者に(株)日本政策投資銀行、(株)常陽銀行を、第三者評価機関に(株)日本総合研究所を据える実施体制とした。



現状の課題整理と
重点施策への設定

こどもの居場所
づくり支援の事
業手法にSIB
を導入

3 事業概要

事業の目標

こどもが複数の居場所を持つことができるように、市内に多数の居場所がある状態を目指す。なお、本事業は、古河市のこどもが複数の居場所を持つための第一段階の位置づけであり、事業終了後も地域の中で居場所が継続し、また増えるのにつながる事業とすることを想定している。

事業の内容

➤ ネットワークの運営



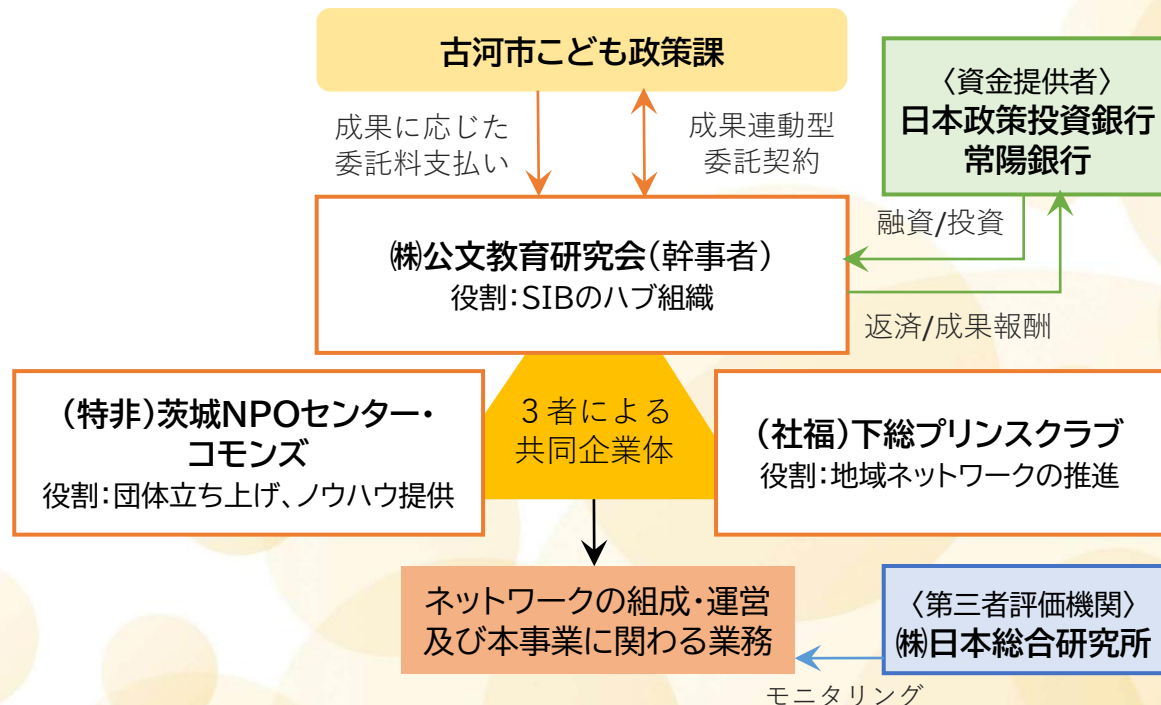
➤ 運営資源仲介(食品、物品、寄附、ボラ)

➤ 居場所マップ等の周知活動

➤ 運営相談

➤ 運営セミナー等開催

事業実施体制(令和7年10月～令和12年3月)



成果指標の概要

段階	内容	主な指標イメージ
周知	大人への理解促進	周知活動(説明会、リーフレット配布) 実施率
実践	居場所立ち上げ・検討	大人の居場所理解度、参加者数・立上げ意向団体数
定着	小学校区への広がり	居場所設置率

最終目標:市内すべての小学校区に、1箇所以上の居場所が立ち上がること